



2024年3月期 決算補足説明資料

2024年5月10日

フィード・ワン株式会社

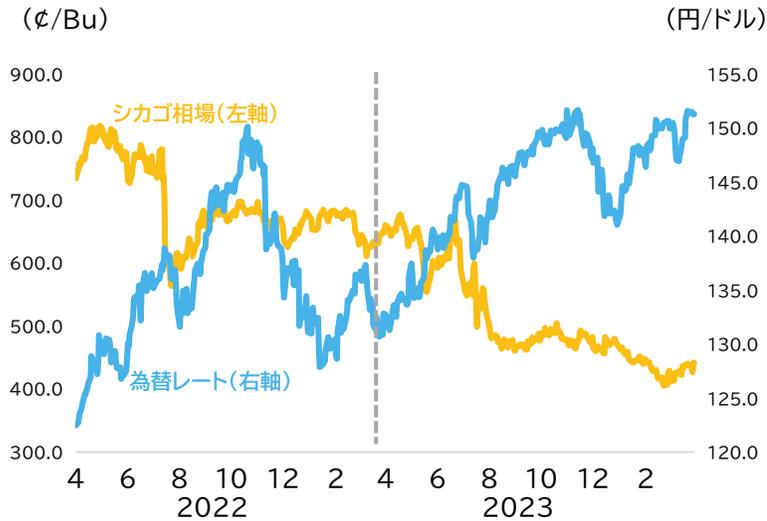
東証プライム 証券コード:2060

事業環境①

1. 輸入原料の価格動向

畜産飼料原料の約50%をとうもろこしが、水産飼料原料の約40%を魚粉が占める

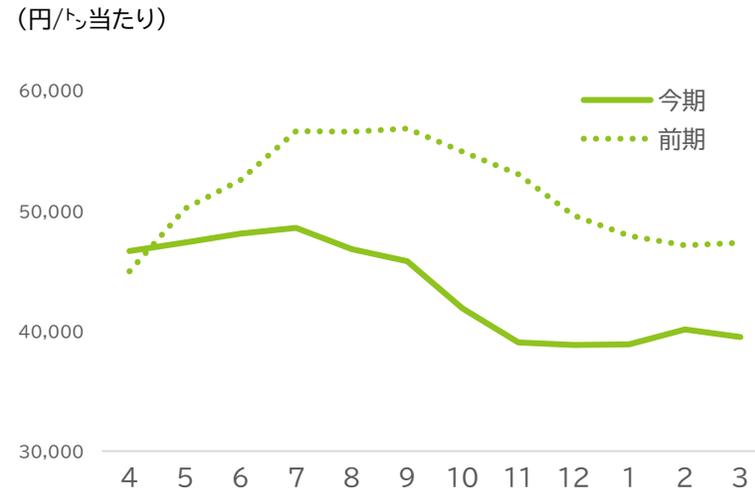
とうもろこしシカゴ相場と為替レート



為替レート: **前期比 6.7%円安**

とうもろこしシカゴ相場: **前期比 26.2%低下**

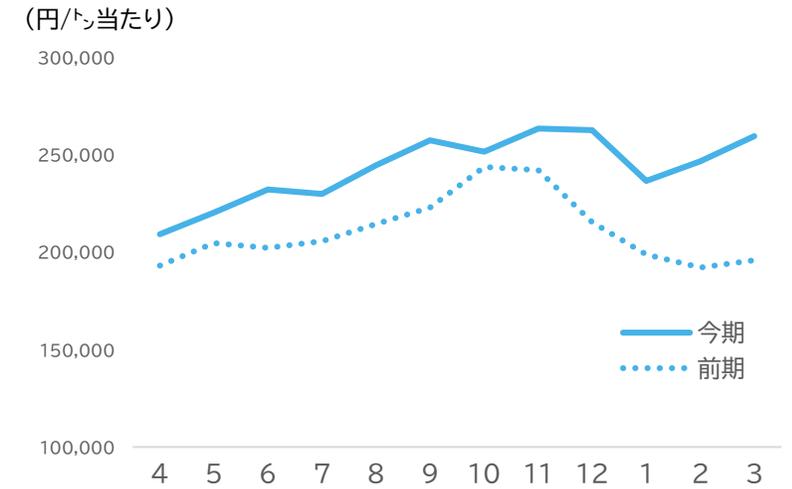
とうもろこしの輸入価格



出所:財務省貿易統計 品別国別表

とうもろこし輸入価格: **前期比15.6%低下**

魚粉の輸入価格



出所:財務省貿易統計 品別国別表

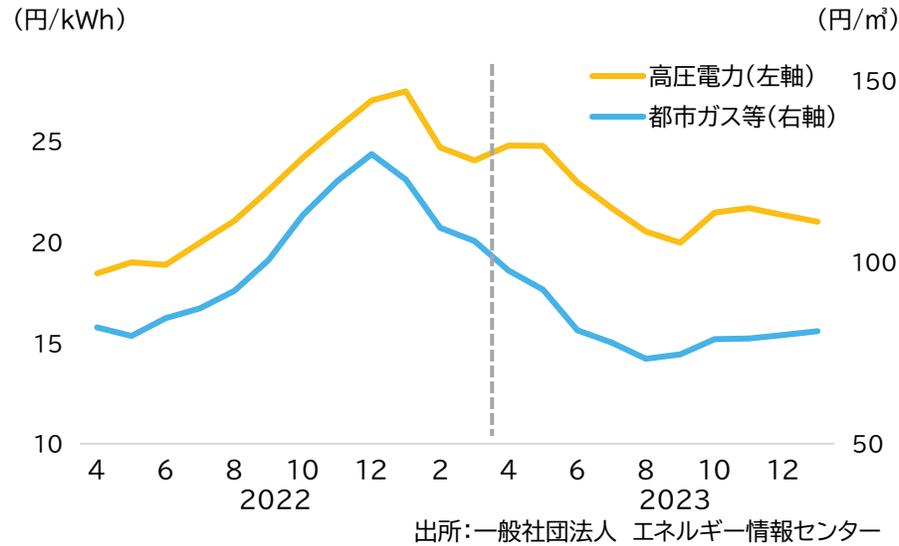
魚粉輸入価格: **前期比 14.3%上昇**

- 為替レートは一時的に円高に振れたものの、日米金利差等が意識され円安傾向
- とうもろこしシカゴ相場は市場予測を上回る安定した生産見通しにより軟化傾向
- とうもろこし輸入価格は前期を大きく下回る

- 日米金利差等により円安が進行
- 主産国ペルーでの不漁(エルニーニョ現象)
- 魚粉輸入価格は前期を大きく上回る

2. エネルギーコストの価格動向

電力・ガスの料金単価推移



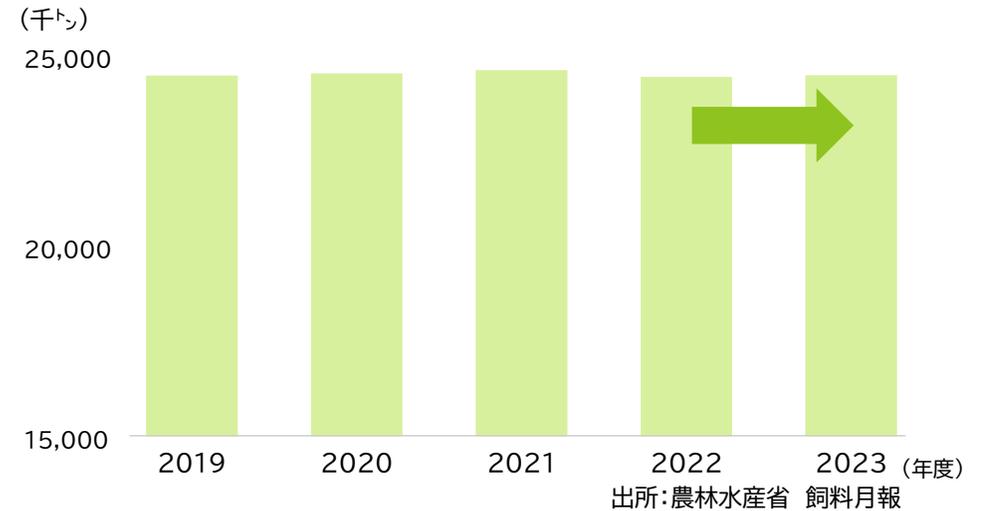
電力料金単価: **前年比 1.8%低下**

ガス料金単価: **前年比 19.5%低下**

- 電力料金単価は価格激変緩和対策事業の縮小により一時的に上昇も、その後緩やかに低下傾向となり前年を下回る
- ガス料金単価は昨年末以降軟調に推移し、前年を大幅に下回る

3. 畜産用配合飼料流通量の動向

国内畜産用配合飼料流通量(4-3月)



畜産用配合飼料流通量は概ね**横ばい**で推移

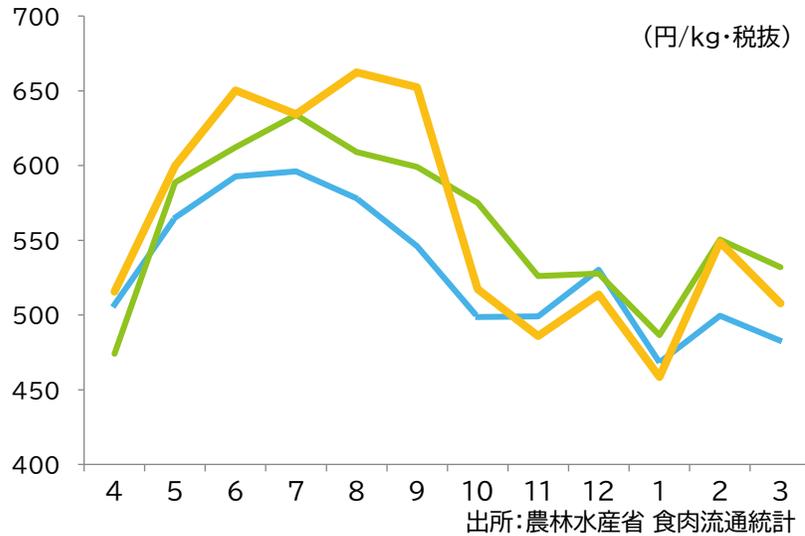
※2024年3月実績は未公表のため過去3年の平均値で試算

- 前年に猛威を振るった鳥インフルエンザの影響から上半期は採卵鶏用で減少するも、下半期に入り回復傾向にあることから、全体では概ね横ばいで推移

4. 畜産物相場の動向

食品事業の売上は豚肉と鶏卵の販売が約9割を占める

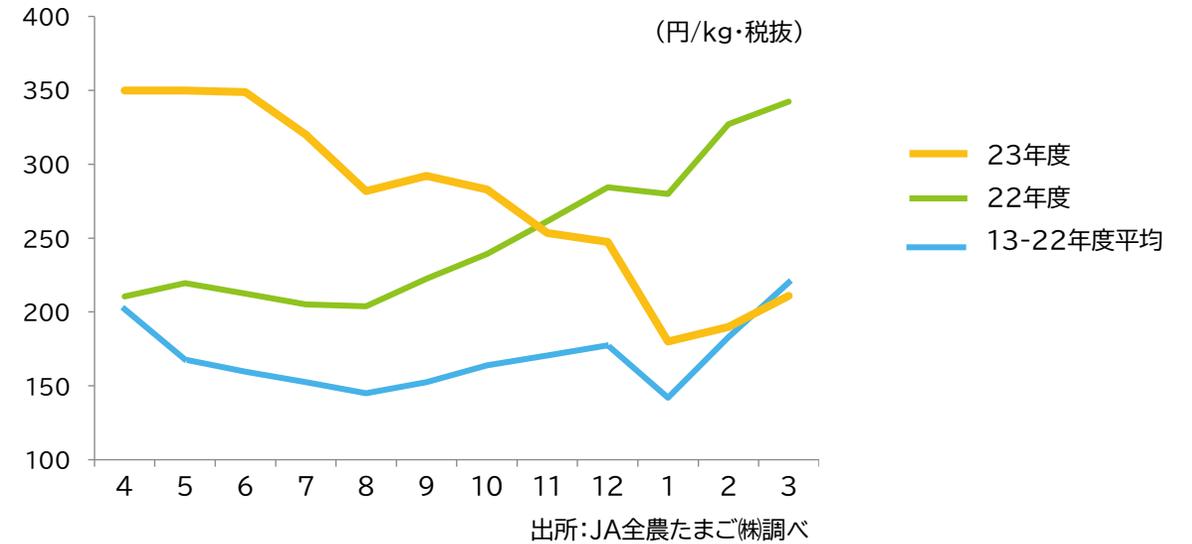
豚枝肉卸売価格(3市場・上物)



豚枝肉卸売価格: **前期比 0.5% 上昇**

- 夏期の記録的猛暑により出荷頭数が減少、前年を上回る
- 秋以降は気温の低下により出荷頭数が回復し、通年では概ね横ばい

鶏卵卸売価格(全農:東京M)

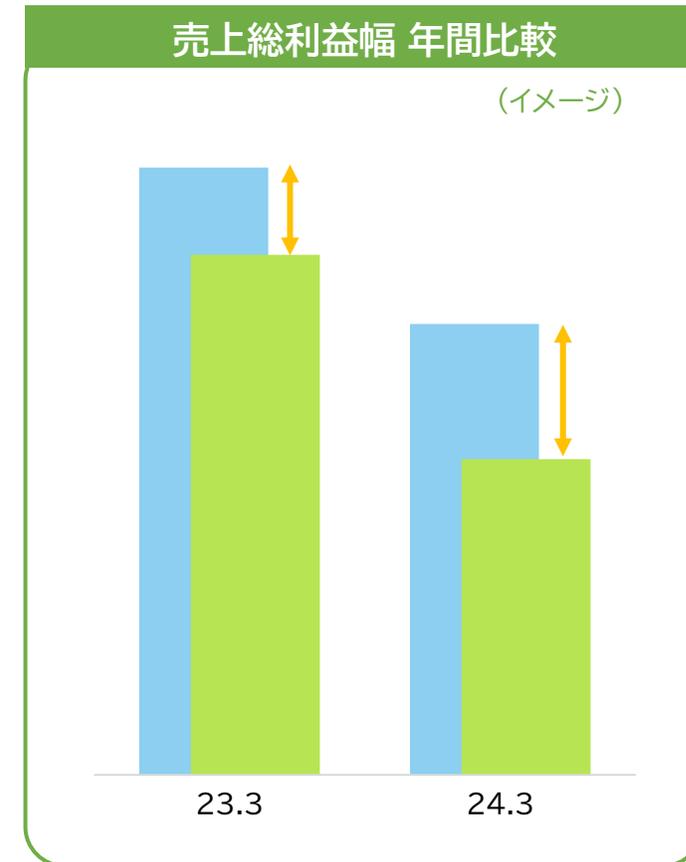
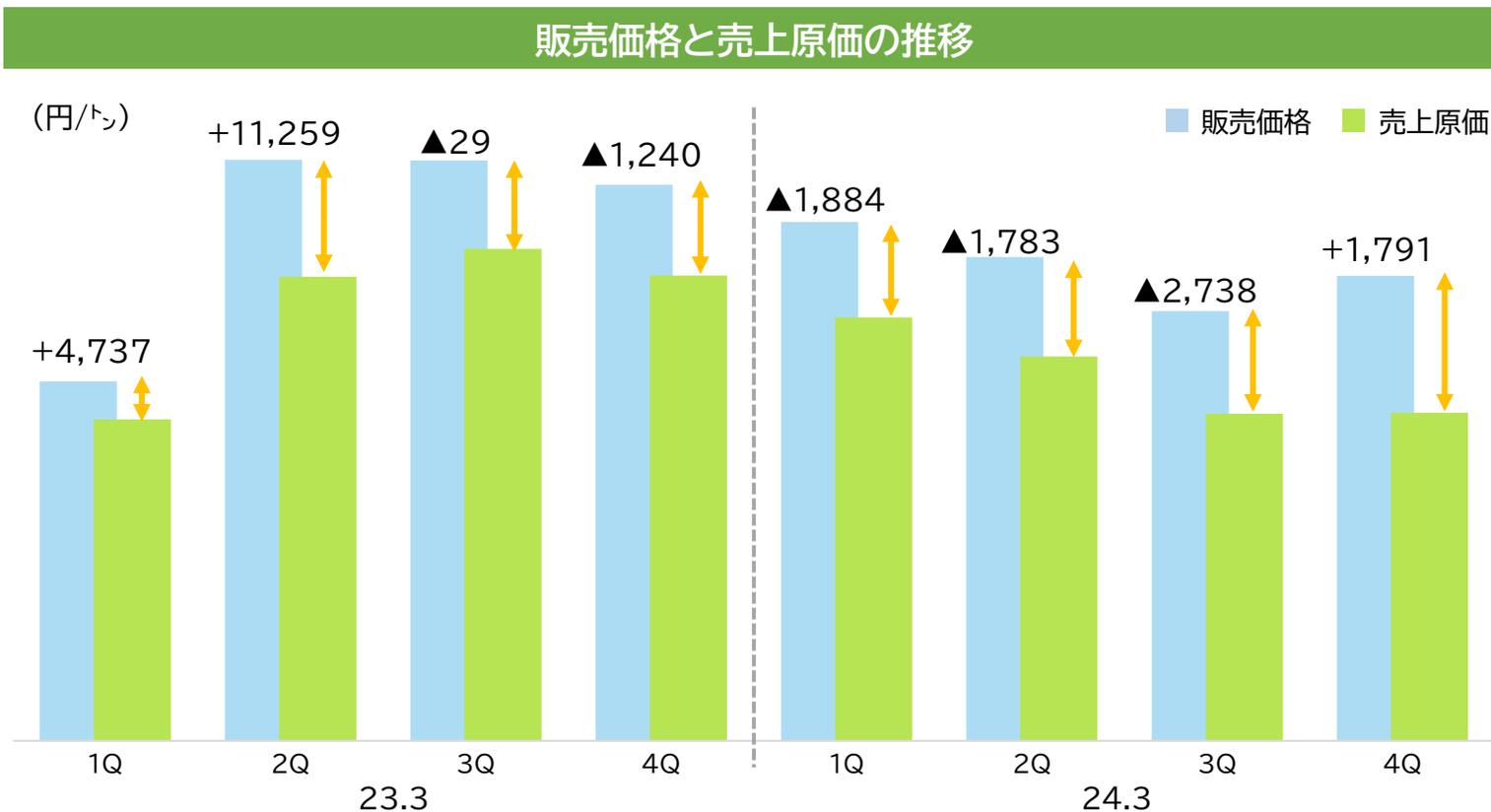


鶏卵卸売価格: **前期比 9.9% 上昇**

- 上半期は鳥インフルエンザの影響から出荷量が減少、前年を大きく上回る
- 11月以降は飼養羽数の回復に伴い生産量も増加、前年を大きく下回る

畜産飼料の販売価格と売上原価推移

販売価格は前第2四半期をピークに連続で低下し、当第4四半期に6期ぶりに上昇
 売上総利益幅は、前期より改善



売上原価における原材料費率は8割強、原材料の5割を輸入とうもろこしが占める
 販売価格は原料相場・為替・海上運賃を踏まえて、四半期毎に改定を行う

2024年3月期 決算概要

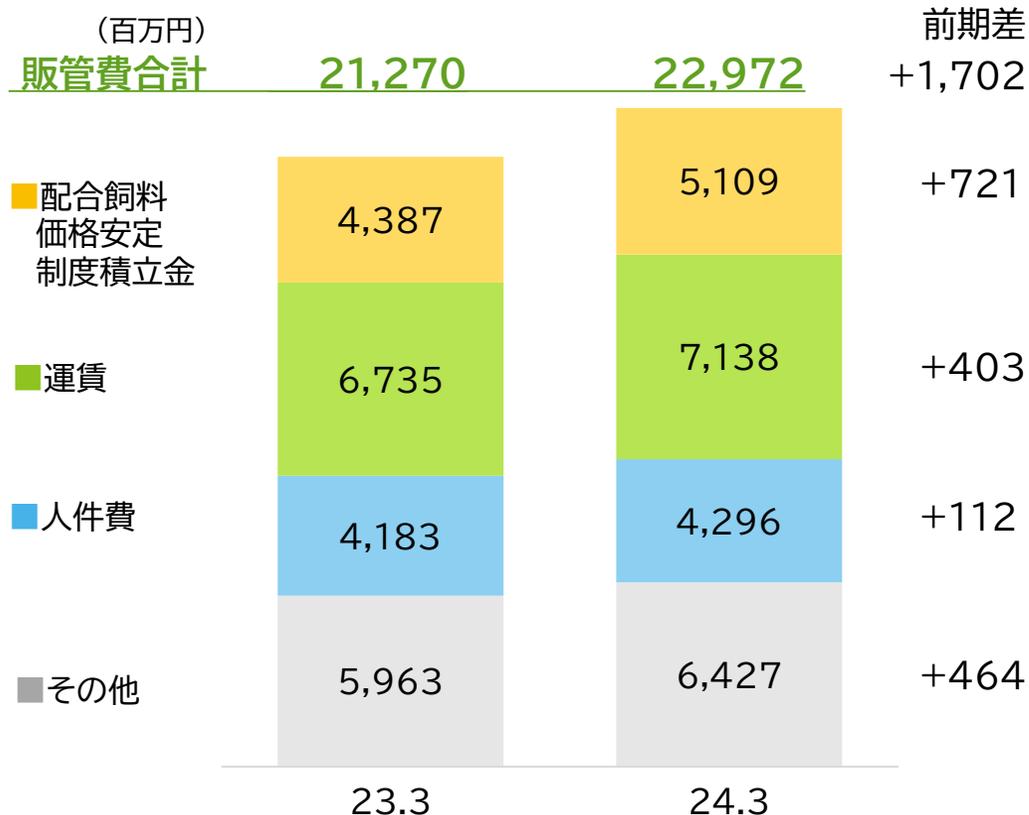
飼料事業の販売数量増加や水産飼料の販売価格上昇等により増収
原材料価格低下等による売上原価の減少により増益

(百万円)

	2023.3期	2024.3期		
			増減額	前期比
売上高	307,911	313,875	+5,963	+1.9%
売上原価	285,218	283,153	▲2,064	▲0.7%
売上総利益	22,693	30,721	+8,028	+35.4%
販管費	21,270	22,972	+1,702	+8.0%
営業利益	1,422	7,748	+6,325	<u>5.4倍</u>
経常利益	1,711	7,737	+6,026	<u>4.5倍</u>
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,030	5,084	+4,053	<u>4.9倍</u>

販管費

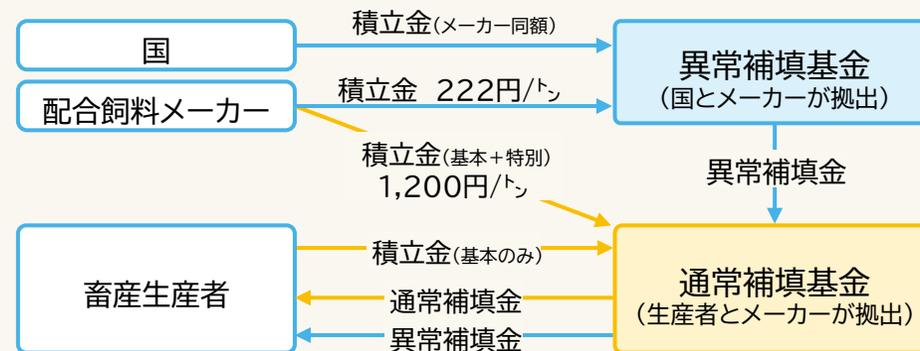
- 配合飼料価格安定制度の積立金が増加
- 運賃は数量増加や単価上昇により増加
- 人件費は給与ベースアップで増加
- その他は営業活動費やシステム関連費が増加



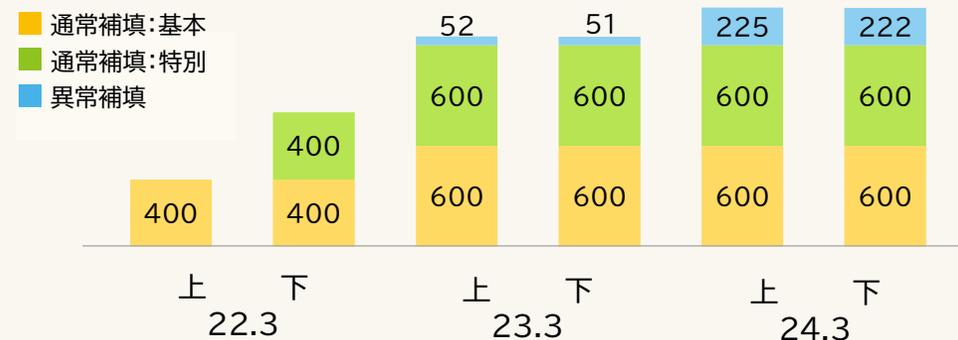
【参考】配合飼料価格安定制度

- ▶ 輸入原料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和する目的
- ▶ 異常補填金発動で23.3期から異常補填積立金が発生。また同期に大幅な輸入原料価格の上昇により異常補填金が増加し、積立金の単価が増額

制度の仕組み(例:2024.3期下期)



積立金推移(配合飼料メーカー)



セグメント別業績

各事業において増収・増益、販売数量は畜産飼料・水産飼料ともに増加

(百万円)

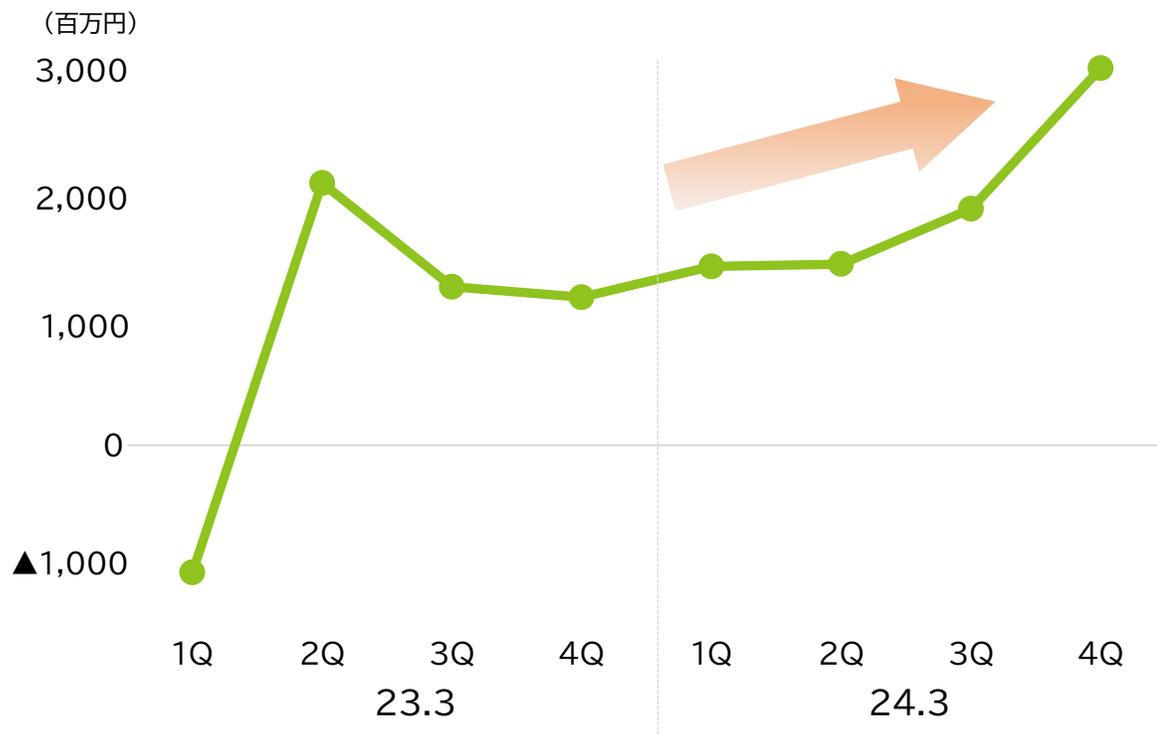
		2023.3期	2024.3期		
			増減額	前期比	
飼料事業	売上高	264,073	267,340	+3,266	+1.2%
	セグメント利益	3,925	9,380	+5,455	2.4倍
食品事業	売上高	41,334	44,105	+2,771	+6.7%
	セグメント利益	▲369	860	+1,230	黒字転換

※セグメント利益:営業利益

販売数量	2023.3期	2024.3期	
		前期比	内訳
畜産飼料	358.6万ト	368.1万ト	+2.7% 採卵鶏用+1%、ブロイラー用+5%、豚用+4%、牛用+1%
水産飼料	10.0万ト	11.0万ト	+9.8% 海水魚用+13%、淡水魚用▲13%

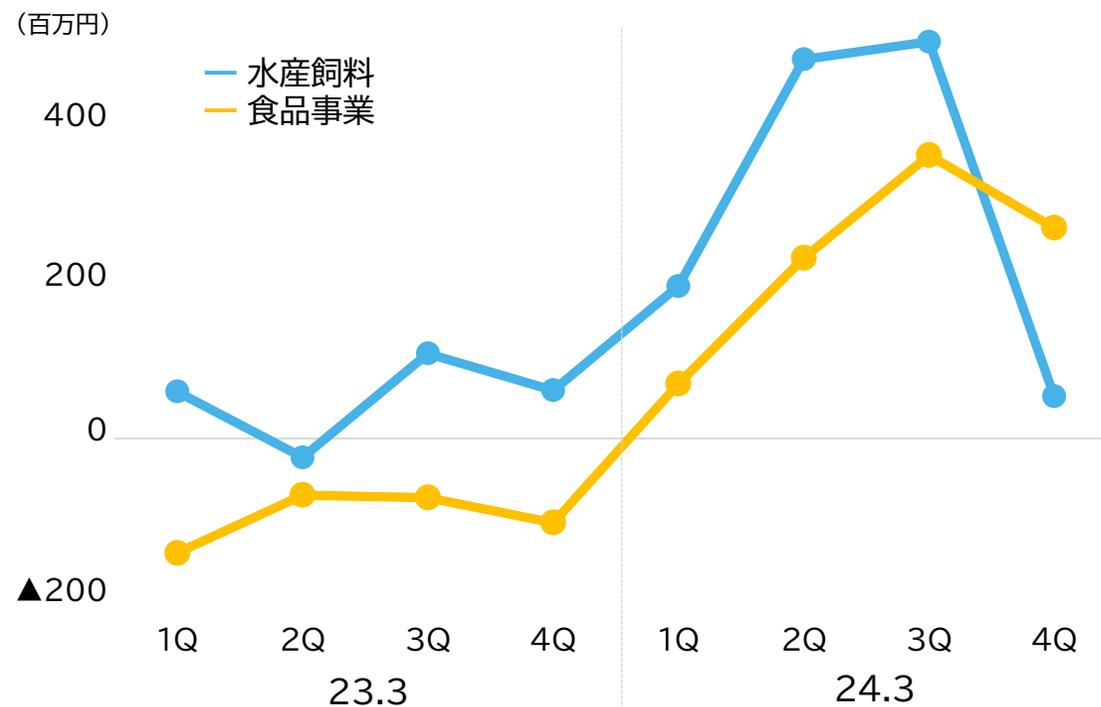
主要事業 四半期ベース業績推移

畜産飼料 営業利益 四半期推移



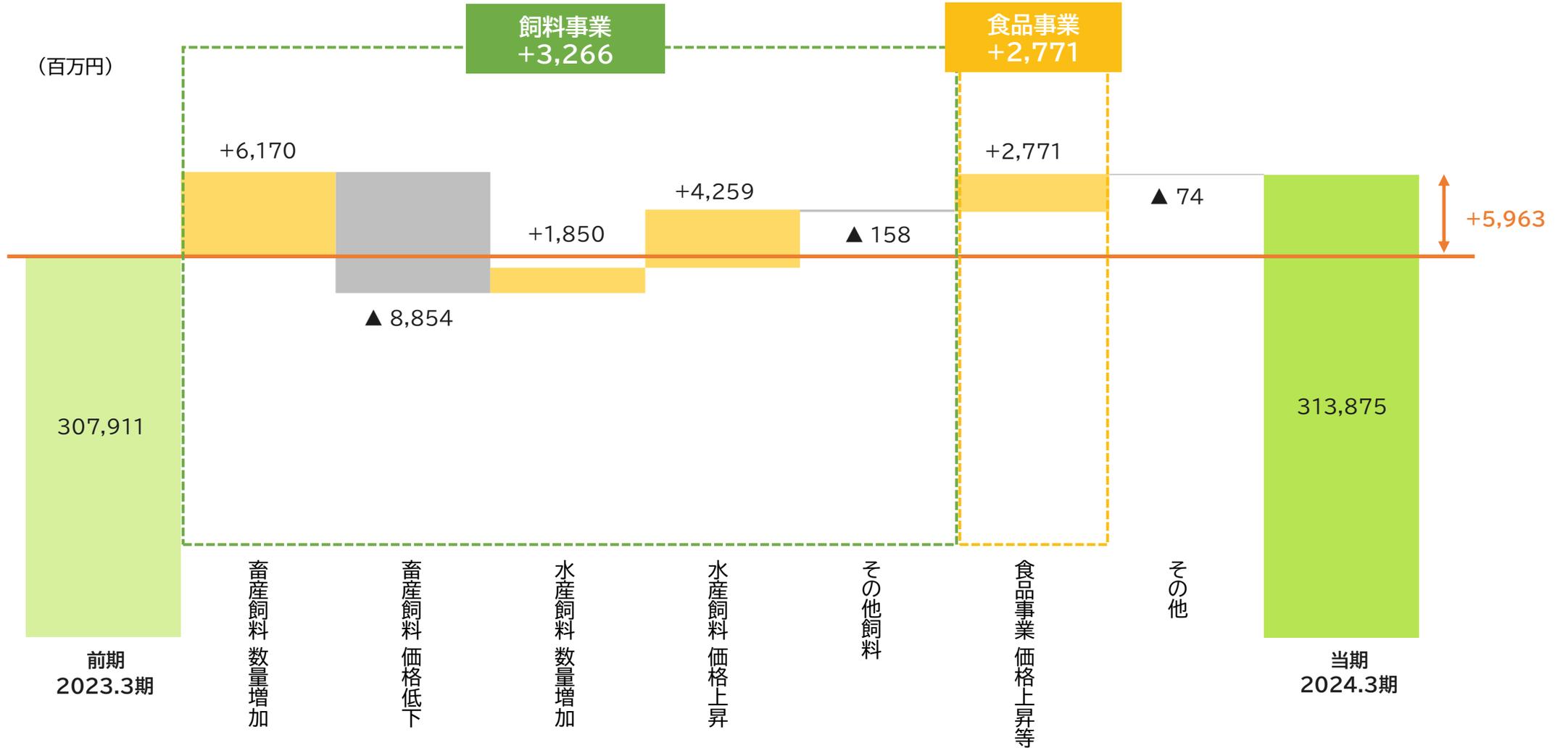
- 安定的な収益基盤のある畜産飼料は定期的な価格改定による売上総利益幅の改善に加え、コスト増の価格転嫁が進み、収益力が強化

水産飼料・食品事業 営業利益 四半期推移

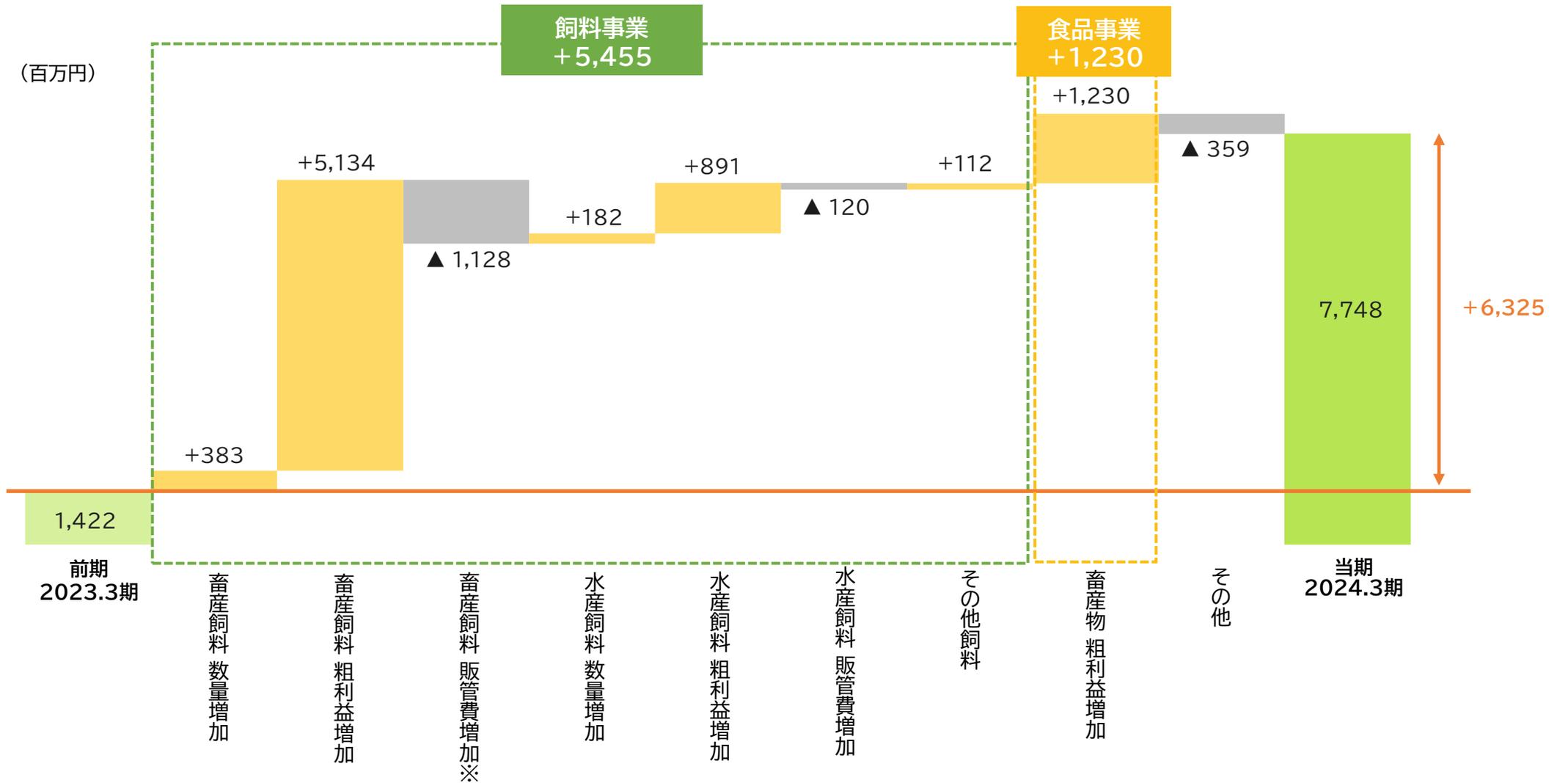


- 水産飼料は上期に実行した価格改定が浸透、4Qは原材料価格の上昇と季節要因により減益
- 食品事業は販売条件の見直しおよび下期の畜産物相場下落により、収益が改善

売上高 増減要因



営業利益 増減要因



※ 配合飼料価格安定制度の積立金増加▲721百万円

2024年3月期 連結財務状況

連結貸借対照表

(億円)

()内の数値は2023年3月末差

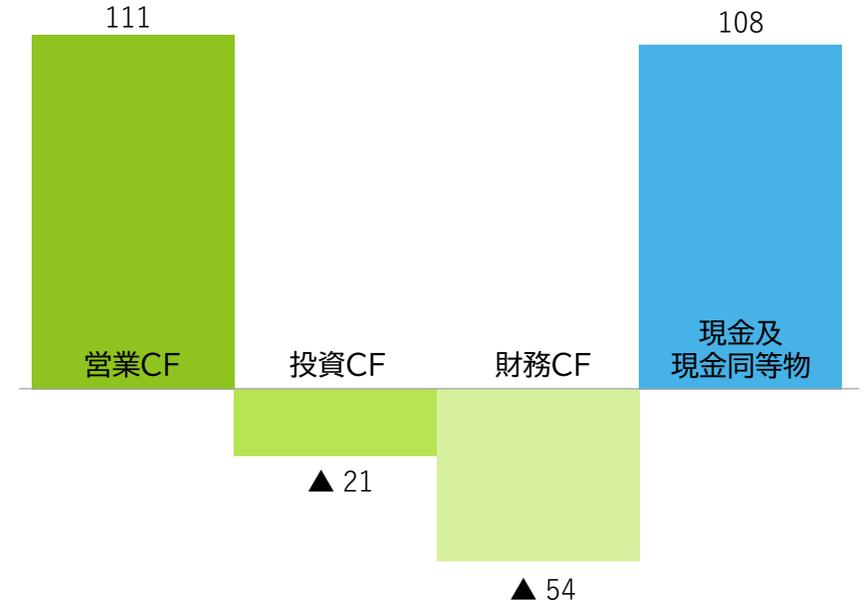
<p>流動資産 882 (+23)</p> <p>現金及び預金 108 (+34) 受取手形及び売掛金 569 (+17) 棚卸資産 173 (▲32)</p>	<p>流動負債 551 (▲49)</p> <p>支払手形及び買掛金 343 (▲21) 短期借入金 105 (▲62)</p>
<p>固定資産 428(+7)</p> <p>有形固定資産 301(▲14) 投資その他の資産 111(+16)</p>	<p>固定負債 250 (+25)</p> <p>長期借入金 211(+19)</p>
<p>純資産 508 (+55)</p>	

総資産 1,310 (+31)

※2024年3月末は休日

連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)



主要因

- 営業CF：当期利益 75
- 投資CF：設備投資 ▲26
- 財務CF：借入金返済 ▲42

現金及び現金同等物：前期末増減額+34

2025年3月期業績予想



2025年3月期 業績予想

(百万円)

	2024.3期	2025.3期	
		増減額	前期比
売上高	313,875	307,000	▲6,875 ▲2.2%
売上原価	283,153	275,200	▲7,953 ▲2.8%
売上総利益	30,721	31,800	+1,079 +3.5%
販管費	22,972	25,700	+2,728 +11.9%
営業利益	7,748	6,100	▲1,648 ▲21.3%
経常利益	7,737	6,300	▲1,437 ▲18.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,084	4,500	▲584 ▲11.5%

前提条件

売上高・売上原価： 畜産飼料の販売価格は原材料価格を踏まえた価格設定、畜産飼料の原材料価格は前期よりも値下げ想定

販管費： 配合飼料価格安定制度積立金は1,820円/ト(前期下期 1,422円/ト)で想定、前期より15億円程増加

物流費・人件費・新基幹システム減価償却費など10億円程増加

セグメントの変更

「より分かりやすい情報開示」を目指して「報告セグメント」を変更

変更点 ・ 事業の集約基準(取扱商材→事業組織) ・ 利益基準(営業利益→経常利益)

旧セグメント 2024年3月期

(百万円)

飼料

売上高: 267,340
営業利益: 9,380

畜産飼料

水産飼料

関係農場扱い畜産飼料

食品

売上高: 44,105
営業利益: 860

豚肉

鶏卵

水産物

新セグメント 2025年3月期(予想)

(百万円)

畜産飼料

売上高: 238,000
経常利益: 7,800

畜産飼料

関係農場扱い畜産飼料

水産飼料

売上高: 28,000
経常利益: 1,000

水産飼料

水産物

食品

売上高: 41,000
経常利益: 300

豚肉

鶏卵

2025年3月期 セグメント別業績予想

(百万円)

		2024.3期	2025.3期	
			増減額	前期比
畜産飼料	売上高	247,055	238,000	▲9,055 ▲3.7%
	セグメント利益	9,056	7,800	▲1,256 ▲13.9%
水産飼料	売上高	26,779	28,000	+1,221 +4.6%
	セグメント利益	921	1,000	+79 +8.6%
食品	売上高	40,031	41,000	+969 +2.4%
	セグメント利益	681	300	▲381 ▲56.0%

※セグメント利益:経常利益

※2024.3期の水産飼料のセグメント利益には、関連会社である極洋フィードワンマリンの清算損を含んでおります。

販売数量	2024.3期	2025.3期		
		前期比	コメント	
畜産飼料	368.1万ト	370.4万ト	+0.6%	採卵鶏用+2%、ブロイラー用+3%、豚用+1%、牛用▲1%
水産飼料	11.0万ト	10.8万ト	▲1.9%	海水魚用▲3%、淡水魚用+7%

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おき下さい。



当資料に関するご質問・お問い合わせにつきましては、弊社のIR代表アドレス宛
(ir@feed-one.co.jp)にご連絡ください。